

○現在の収容鳥獣と救護状況



現在、当センターで終生飼育されている野生鳥獣の収容状況を右下の表に示します。

平成23年の7月4日から8月31日の間にセンターに搬入された野生鳥獣はスズメ（8）、カルガモ（3）、ヒヨドリ（3）、コウモリ（3）、チゴハヤブサ（3）、キジバト（2）、ツバメ（2）、ゴイサギ（2）、ハシブトガラス（2）、コムドリ、シジュウカラ、ニホンカモシカ、アナグマ、コハクチョウ、トビ、アオゲラ、キジ、ハト、アオサギ、カワラバト、オオタカの21種39個体でした。

この期間はまだヒナや幼鳥の搬入が続き、また巣立っていく個体もあって幼鳥・幼獣の出入りが激しい状態です。

6月に運び込まれた10匹のタヌキの兄弟たちは元気に育ちましたが、いつまでたっても臆病で甘ったれ。「野性に戻れるだろうか？」とずいぶん心配しましたが、8月13日、突然野性に目覚めたのか、兄弟

獣類	
ニホンジカ	オス1、メス1
ノウサギ	オス1
猛禽類	
トビ	10
ノスリ	4
フクロウ	3
チョウゲンボウ	3
サシバ	1
オオコノハズク	1
その他の鳥類	
オオハクチョウ	19
コハクチョウ	2
マガン	1
ヒシクイ	1
ツバメ	1

まとめて巣立って行きました。手がかかった分だけ、いなくなるとちょっとさみしい気分が残ります。これからタヌキが搬入されるたび、タヌキ兄弟のことが心配になるかもしれませんね。

タヌキたち同様に巣立っていったチョウゲンボウ、アナグマ、フクロウ…。その一方で、うまく育たなかったヒナたちがたくさんいます。まちがって親から離してしまわないように、本当に気をつけましょう。

野生動物ピックアップ チゴハヤブサ (*Falco subbuteo*, Eurasian Hobby)



ハヤブサ(上の写真)をハトくらいの大きさに縮小したような、ハヤブサ科の小型猛禽類で、岩手県では夏鳥として観察されます。市街地でも繁殖し、バッタやトンボなどの昆虫をよく食べているようです。「ピー、ピー、ピー、ピー、ピー!!!」と甲高い声が聞こえたら、チゴハヤブサの若鳥の姿が見られるかもしれませんよ。

ハヤブサらしい精悍な顔つきをしていますが、小さな体と細い足では迫力がちょっと足りません。稚児ハヤブサとはぴったりの名前ですよ?!

今年は珍しく、3羽ものヒナがほとんど同時に運び込まれ、巣立ちに向けた訓練を続けています。

トリの足の指を観察しよう！



コハクチョウ

(*Cygnus columbianus*; Tundra Swan)

オオハクチョウより一回りほど小さなハクチョウの仲間で、やや浅い水域で生活する。岩手県への飛来数は比較的少ない。

くちばしの付け根の黄色い部分がオオハクチョウよりも狭いのが特徴。



皆さんはトリの足の指をじっくりと見てみた事がありますか？鳥類の足の形は驚くほどの種類がありますが、指の骨の構成も哺乳類とは大きく違います。

左の写真はコハクチョウで、水かきが発達しているのが特徴です。ヒレは人間で言うと人差し指と中指、薬指の3本でできていて、ヒレと反対側にもうしわけ程度の親指がついています。さて、じっくりと指の形、特に節の部分に注目して見てみると、おかしなことに気が付きませんか？実は鳥類は、指によって骨の数が違うんです。

トリの足は基本的に親指、人差し指、中指、薬指の4本で構成されていますが、この順で指の骨は1、2、3、4個と増えていきます。トリにとっては当たり前なんでしょうが…、不思議と思いませんか？

鳥獣保護センターにインターネットが開通しました!!

8月末より、岩手県鳥獣保護センターにもインターネットの回線が引かれ、メールでの問い合わせなども受けられるようになりました。画像ファイルによる野鳥の鑑別や救護時の対応に関するお問い合わせ、またボランティアの皆さんへの情報提供などに活用できるように体制を整えていく予定です。Eメールアドレスは以下の通りです。また、従来通りお電話での連絡・お問い合わせも承っておりますので、お気軽にご連絡ください。

●岩手県鳥獣保護センター：iwpc@lilac.ocn.ne.jp

インターンシップ報告

岩手県鳥獣保護センターでは今年も夏休み期間を利用したインターンシップの受け入れがあり、鳥獣保護センターの日常業務を3人の大学生の皆さんに、5日間にわたって実践していただきました。

受け入れ期間中の傷病鳥獣の搬入はツバメ、ゴイサギ、キジバトの3羽のみでしたが、介護の甲斐なく命を失っていくすがた、逆にこちらの気持ちに伝えるように餌を食べ、体力を取り戻していく姿、また重い障害で野生復帰出来ない飼育個体の世話を通じてそれぞれに命を感じ取ってもらえることができたのではないかと思います。皆さんの感想文から一部抜粋してみましょう。



「動物の死からは命の儚さを改めて実感させられました。生きていたはずの命が数時間後には消えているという現実、正直つらいものがありましたが、それゆえに生きている命が愛しく感じられるのだと気づかされました。」

「片翼や片脚を失ってもたくましく生きている動物たちを見て、私の方こそ元気をもらえました。“命”や“動物福祉”などを改めて考えさせられる5日間でした。」

「野生動物の搬入、世話、死に立ち会えたことはとても貴重な体験だったと思います。また、5日間かけて作成した骨格標本が完成して、とてもよかったです。」

命について考えるとき、実体験があるかないかでは大きな違いがあります。今の時代はインターネットやメディアからの情報は過剰なぐらい得られますが、その反面、野外作業や生き物とふれあう機会などはとても少なくなっています。鳥獣保護センターの日常業務では動物たちの世話をするだけでなく、草刈りや枝拾い、さらには施設の改修・修繕など多岐にわたり、きつといい経験になったと思います。



今回のインターンシップでは、日常業務に加えて「救護データの集計」と「ニホンカモシカの骨格標本の組み立て」の二つを課題として実践してもらいました。初めてで5日間での完成は難しいかな、と正直思っていました。3人でしっかりと役割分担して期間中にしっかりと完成させてくれました。どちらも有効に活用させていただきます、お疲れ様でした!!



クイズ! 僕だあれ?!



ヒント:

クリクリと大きな目、するどくとがったクチバシ、大きな耳。えっ、岩手にこんな子いたかな?

ヒナ鳥のようですが、実は立派な大人です。ハトより一回り小さくて夜行性。鳴き声がとても特徴的で有名ですよ!

(答えは次のページ)

岩手県鳥獣保護センター

○所在地 〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込390-29

○電話・FAX:019-688-4728

(不在の場合、お名前と連絡先を留守伝言のメッセージに残していただくと折り返し連絡します。)

○開所案内

年末～年始(12月29日～1月3日)を除く年中無休

午前8時30分から午後5時15分 (ただし、臨時に変更になる場合があります。)

○ケガや弱っている鳥獣を見つけたら、まず、ケガや衰弱の具合を見るのが大切です。むやみに手を触れたりせず、元気であればそっとしておいてください。ケガや衰弱のため、動けないようであれば、最寄りの広域振興局福祉環境部又は保健福祉環境センターにお知らせください。なお、傷病鳥獣の状況により、しばらく様子を見守っている場合もあります。センターのスタッフが直接救護に向かうことは基本的にありません。

○鳥獣保護センターに傷病鳥獣を直接搬入される場合、それぞれの動物やケガ、症状に合わせた受け入れ態勢を整えて待機しますので、できるだけ事前にセンターまで連絡してもらえますようお願いいたします。

○センターの見学や研修、野生鳥獣の貸し出しやボランティア活動などを希望される場合は所定の手続きが必要です。岩手県自然保護課もしくは鳥獣保護センターに連絡し、手続きについてお問い合わせください。

センターへのアクセス



クイズの答え：

ボクの名前は…、オオコノハズクです!!

センターにいるオオコノハズクはちょうどお盆頃に換羽の時期に入り、頭の羽毛だけがすっきりと抜け落ちてみんなを驚かせてくれました。皮膚病と間違われてイソジンで消毒されたりしましたが…、はや一週間後には新しい羽が伸び始めました。

はじめは「イメチェンに失敗した中学生みたい」などと大不評でしたが、見慣れると高校球児みたいにさわやかで、ベリーショートのコールドビズで涼しく夏を乗り切る知性派です。

鳴き声はブッポウソー。



8月13日



8月20日 角刈り風

